

# 「わたしの避難計画」取扱説明書

静 岡 県

令和4年3月

# 目 次

1. 「わたしの避難計画」とは.....	1
2. マイタイムラインとの関係.....	1
3. 「わたしの避難計画」の作成.....	1
4. 「わたしの避難計画」の掲載項目.....	2
5. 「わたしの避難計画」作成手順.....	3
6. 「わたしの避難計画」の構成について.....	3
標準パターン A（津波リスクが想定されない地区）の構成.....	4
標準パターン B（津波リスクが想定される地区）の構成.....	10
知識ブックの構成（任意作成）.....	16
7. 印刷費用等.....	17
8. 普及方法.....	18

参考資料1:2次元コードの作成方法

参考資料2:ハザードマップ及び凡例の貼り付け方法

参考資料3:チラシ

参考資料4:アンケートの活用

参考資料5:解説手引き

参考資料6:やさしい日本語版

参考資料7:応用事例

## 1. 「わたしの避難計画」とは

「わたしの避難計画」とは、身の回りの災害リスク（河川氾濫、土砂災害、地震・津波等）に対して「いつ」「どこに」避難するか、あらかじめ記載したものです。

「わたしの避難計画」には次のような特徴があります。

- ・ 基本仕様は、配布すれば誰でも作れるものという視点で住民より頂いた意見を反映
- ・ データは、行政職員でも簡単に編集できるよう、pptx（パワーポイント）形式
- ・ 災害リスクは、市町の既存ハザードマップを活用した内容
- ・ 記載内容は、自分ごととして意識してもらうため、できるだけ地区に絞った内容  
地域防災訓練で作成ワークショップを実施したり、地域防災の日や津波対策旬間のタイミングで回覧により配布したりして、住民の避難意識向上のための施策として、「わたしの避難計画」を普及展開していただければと思います。

## 2. マイタイムラインとの関係

「マイタイムライン」とは、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に自分自身がとる防災行動を整理したものです（国土交通省 HP より）。

一方、「わたしの避難計画」は、河川氾濫のみならず、土砂災害や地震・津波等も対象とし、記載項目を避難のタイミングと避難先など必要最低限に絞ることで、取りかかりやすい内容にまとめています。

<「マイタイムライン」を既に進めている地域について>

### ○主たる災害リスクが「河川氾濫」に限定される地域・・・

引き続き「マイタイムライン」を作成することを妨げないものとします。「マイタイムライン」の作成が難しい場合、導入編として「わたしの避難計画」を作成することを勧めます。

### ○「河川氾濫」の他に「土砂災害」や「津波」のリスクが想定される地域・・・

「マイタイムライン」で検討した内容に、土砂災害や地震・津波の避難行動を加えることで「わたしの避難計画」として普及していきます。

## 3. 「わたしの避難計画」の作成

作り方を示した「作成ガイド」を見ながら、「わたしの避難計画」を作成します。「わたしの避難計画」を作成したら、冷蔵庫など目のつく場所に貼っておきます。

また、避難に関してより詳しい情報を「知識ブック」にまとめています。ただし、市町によっては、ハザードマップや避難に関する知識をまとめた冊子を既に全戸配布している場合があるため、「知識ブック」の作成・配布は、あくまで任意です。



## 4. 「わたしの避難計画」の掲載項目

掲載項目については、原則掲載する「基本項目」と、市町や住民のニーズに応じて追加する「オプション項目」に分けています。「基本項目」は、避難のタイミングや避難先、災害リスクの確認といった必要最小限に絞っています。

①「わたしの避難計画」 **A4×1ページ**を原則とします。

基本項目（原則掲載）	オプション項目（必要に応じて記載※）
<b>（河川氾濫、土砂災害）</b> ・ 災害リスクの該当チェック欄 ・ 避難先、避難のタイミング、 情報収集手段の記載欄 <b>（地震、津波）</b> ・ 安否確認方法（一時避難先）の記入欄 ・ 津波到達時間、避難先の記入欄	・ 避難に時間がかかる人のチェック欄 ・ 呼びかけ避難に関する記入欄 ・ 河川カメラ等の2次元コード ・ 南海トラフ地震臨時情報の対応記入欄 ・ 持ち出し品チェック欄 ・ 自由記述欄（連絡先等） ・ 市町マスコットキャラクター など

※用紙サイズに収まる範囲内で市町や住民ニーズに合わせて対応

②「作成ガイド」 **A4×4ページ**（A3二つ折り）を原則とします。

わたしの避難計画を作成するための手順を掲載します。記載内容はP4以降を参照下さい。

③「知識ブック」 区別しやすいよう **B5冊子**を原則とし、作成は市町の任意とします。

作成ガイドに掲載仕切れなかった避難に関する情報を掲載します。P16を参照下さい。

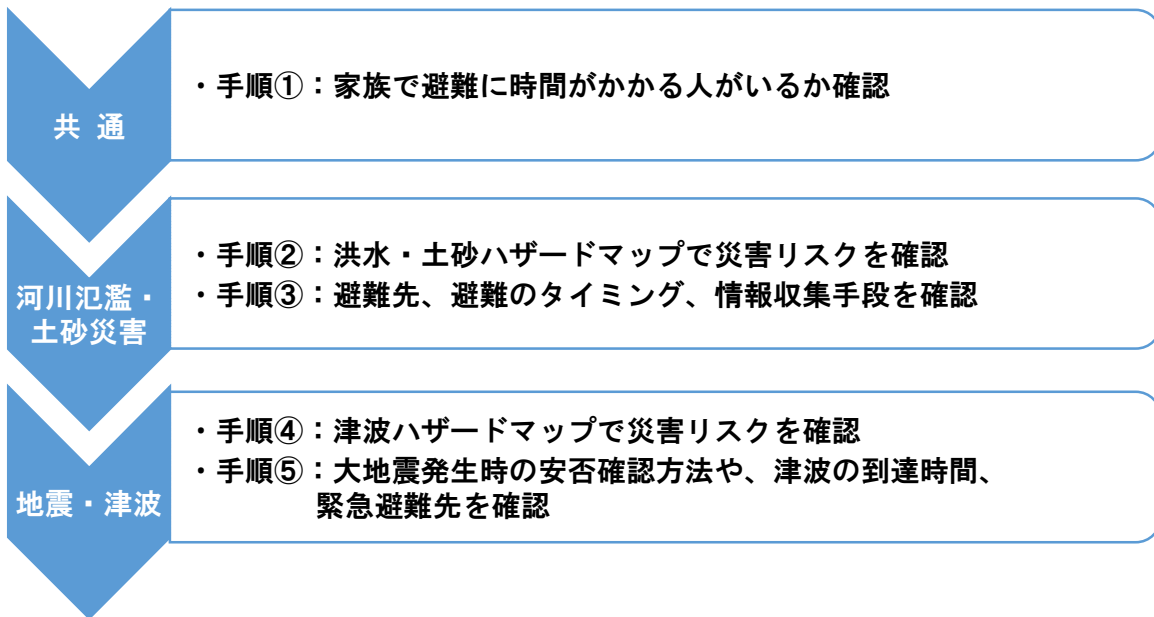
### 住民からの意見

- ★配布して作ってもらうためには、情報量と作業量を最小限にしてほしい。
- ・ 知識に関する内容は「作成ガイド」とは別冊で整理した方が良いと思う。
- ・（「作成ガイド」について）住民に見てもらうには、A3二つ折りぐらいが丁度良い。
- ・ 情報量を最小限とするため、「わたしの避難計画」と「作成ガイド」のみの配布としたい。

※「わたしの避難計画」は、県内モデル地区8箇所で開催した住民ワークショップを開催し、住民や市町の意見を踏まえ、作成しました。当取扱説明書では、参考としました意見を併せて掲載しています。特に多かった意見については★で表記しています。

## 5. 「わたしの避難計画」作成手順

「わたしの避難計画」は以下の流れで作成していきます。



## 6. 「わたしの避難計画」の構成について

地震発生時に津波リスクの有無で計画の掲載内容が大きく分かります。そこで、津波リスクの有無に着目し、2つの標準パターンの構成を紹介します。

この2つの標準パターンの利用を基本とし、必要に応じて、オプション項目を追加・差替え等を行ってください。なお、標準パターンで紹介されていないオプション項目は、参考資料7「応用事例」を参考としてください。

**標準パターンA：津波リスクが想定されない地区**

⇒風水害（河川氾濫、土砂災害）や地震について

**標準パターンB：津波リスクが想定される地区**

⇒風水害（河川氾濫、土砂災害）や地震・津波について



**A：津波リスクなし、B：津波リスクあり**

**の2つについて、構成案を紹介します！**

# 標準パターン A（津波リスクが想定されない地区）の構成

○作成ガイド（A4×4 ページ、A3 二つ折り）1 ページ目

**伊豆の国市 南條地区**  
**わたしの避難計画 作成ガイド**

<目次>

はじめに 家族で避難に時間がかかる人がいるか確認	P1
<b>大雨①</b> ハザードマップで自宅の危険を確認し、記入	P2
<b>大雨②</b> 避難のタイミング、避難先、情報収集手段を確認し、記入	P3
<b>地震①</b> 大地震発生時の行動を確認し、安否確認方法を記入	P4

<見本>

はじめに 家族で避難に時間がかかる人がいるか確認

- 家族で避難に時間がかかる人がいるかどうか確認しましょう。
- 避難に支援が必要な方は、あらかじめ支援してもらう方を決めておきましょう。

次のページに進もう →

P1

## ポイント① 原則

- ・ 該当地区の名称を明記し、地区に応じた「わたしの避難計画」にカスタマイズ。

## ポイント② 原則

- ・ あらかじめ作成の流れや完成イメージをもってもらうため、目次と見本を記載。

## ポイント③ オプション

- ・ 避難行動要支援者個別避難計画の担当課を紹介したい場合、「支援が必要な方は□□課☆☆係に相談しよう！」等で記載

### 住民からの意見

- ★作業の流れを最初に紹介してもらわないと、何から始めれば良いかわからない。
- ポイント②

### 市町からの意見

- ・ 避難行動要支援者の相談窓口として、民生委員や町の福祉担当課を紹介したい。
- ポイント③

## 2 ページ目

**大雨 (河川氾濫・土砂災害)**

**大雨① ハザードマップで自宅の危険を確認し、記入**

⑦ 自宅の位置を確認しましょう

見えにくい場合は「伊豆の国市防災マップ」もしくは「国土交通省の重ねるハザードマップ」で確認しよう。

国土交通省の重ねるハザードマップ (河川氾濫) (土砂災害)

家屋倒壊等氾濫想定区域 ※出典:伊豆の国市防災マップ

⑩ 下記の災害リスクを確認し、「わたしの避難計画」に記入しましょう

河川氾濫による危険	土砂災害による危険
<ul style="list-style-type: none"> <li>○家屋倒壊等氾濫想定区域 川が氾濫した場合に、家屋が流出するおそれがある区域</li> <li>○浸水想定区域(浸水深) 川が氾濫した場合に浸水するおそれがある区域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○土砂災害警戒区域 土砂災害のおそれのある地域</li> <li>○土砂災害特別警戒区域 土砂災害が発生した場合、建物の破壊が生じ、住民等の生命や身体に著しい危害が生じるおそれのある地域</li> </ul>

浸水深 5.0m以上の区域  
浸水深 3.0m~5.0m未満の区域  
浸水深 0.5m~3.0m未満の区域  
浸水深 0.5m未満の区域  
浸水なし

急傾斜地崩壊(土砂災害警戒区域)  
急傾斜地崩壊(土砂災害特別警戒区域)  
土石流(土砂災害警戒区域)  
土石流(土砂災害特別警戒区域)  
地すべり(土砂災害警戒区域)

P2

### ポイント④ オプション

- ・国土交通省の重ねるハザードマップの2次元コードを掲載。

### ポイント⑤ 原則

- ・拡大したハザードマップを掲載。
- ・身近なランドマーク(スーパー、コンビニ等)を適宜追加。

### ポイント⑥ オプション

- ・凡例色が見えにくい場合は、代表点の浸水深等を旗揚げして例示。

### ポイント⑦ 原則

- ・凡例を掲載。併せて各用語の説明を記載することが望ましい。
- ・浸水深の凡例に浸水なしを追加。

## 住民からの意見

★ハザードマップが市町全体図では見づらい。目印がなく自宅の位置がわからない。コンビニや地区の目標物などが書かれていると分かりやすい。

→ポイント④、ポイント⑤

★ハザードマップの浸水深の色分け(国の標準)が見づらい。

→ポイント⑥

★ハザードマップで色がついていない所はどういう意味なのかわからない。

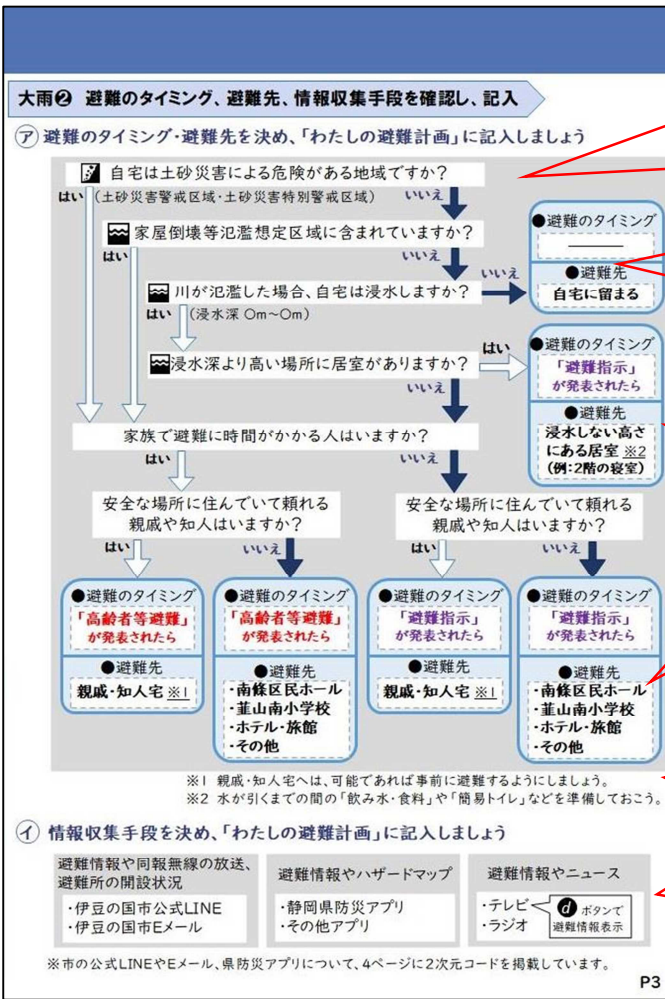
→ポイント⑦

## 市町からの意見

- ・見えづらい場合は、各戸配布しているハザードマップを参考にしてもらいたい。



### 3 ページ目



#### ポイント⑧ 原則

- ・原則立ち退き避難となる、土砂災害警戒区域と家屋倒壊等氾濫想定区域からフローを始める。

#### ポイント⑨ 原則

- ・枠デザインを「わたしの避難計画」と統一する。

#### ポイント⑩ 原則

- ・在宅避難も避難先の記載を例示。

#### ポイント⑪ 原則

- ・地区に対応した避難先を列記。

#### ポイント⑫ オプション

- ・避難先の選び方の留意点を注記。

#### ポイント⑬ 原則

- ・入手できる情報を見出しとして、情報収集手段を列記。テレビは必須。

### 住民からの意見


- ・在宅避難の場合、避難先をどう書けば良いか分からない。  
→ポイント⑩
- ・情報収集手段がそれぞれ何の情報が入るかが分からない。
- ・スマホが使えない人もいるため、テレビやラジオも追加してほしい。  
→ポイント⑬

### 市町からの意見

- ・宿泊施設と災害時の避難先利用として同意を得ており、避難先にホテル等を追加したい。  
→ポイント⑪
- ・在宅避難の場合の貯蓄を促す文書を入れたい。
- ・指定避難所以外の避難所が開設される場合もある、という旨を記載してほしい。  
→ポイント⑫
- ・市町独自のアプリやSNSを紹介したい。  
→ポイント⑬



## 4 ページ目



### 地震

**地震① 大地震発生時の行動を確認し、安否確認方法を記入**

○南條地区の地震による危険  
震度5強から震度6弱の揺れと、液状化の可能性が想定されています。

○震度と体感

震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半の人が恐怖を覚え、物につかまらなると感じる	物につかまらなると歩くことが難しい	立っていることが困難になる	這わないと動くことができない	耐震性の高い木造建物でも傾くことがある

○液状化が発生した場合  
マンホールなどの埋設物が浮き上がったり、道路に段差が発生したりする可能性があります。避難する際には足下に注意しましょう。

○大地震発生時の行動

**大地震発生**

①体勢を低くし、固定されたテーブル等の下に入り頭を守る  
②動かずじっとする

➔

**揺れが収まったら**

①ブレーカーを落とす  
②ガスを止める

➔

**各地区の安否確認方法に従う**

➔

**自宅に被害があったら**  
指定避難所へ避難

**自宅に被害がなかったら**  
自宅待機

ア 地区の安否確認方法を確認し、「わたしの避難計画」に記入しましょう


★南條地区の安否確認方法 (各ブロックの集合場所) に集まる

---


**情報収集手段に関する紹介**

避難情報や同報無線の放送、避難所の開設が確認できます。

・伊豆の国市 公式LINE




・伊豆の国市 Eメール



避難情報やハザードマップが確認できます。

・静岡県 防災アプリ




2次元コードが読み込めない場合は、名前で検索してみてください!


静岡県防災アプリ

土砂災害の危険度、河川の様子を確認できます。

・気象庁 キキクル (土砂災害)



・国交省 川の防災情報 (狩野川)



P4 2022年1月作成

### ポイント⑭ 原則

- ・想定されている震度および液状化の可能性の有無を文章で記載。

### ポイント⑮ 原則

- ・地震時の安否確認方法を記載。  
(集合場所や一時避難先など、地区で使用している表現とする)

### ポイント⑯ オプション

- ・住民の避難に役に立つ情報の収集手段について紹介。
- ・2次元コードの利用が難しい方へ検索を促す注記を記載。

### 住民からの意見

- ・想定震度や液状化可能性のハザードマップは(メッシュが粗く)見づらい。  
→ポイント⑭ (想定震度や液状化のハザードマップは地域の傾向を示している)
- ・一時避難先という表現を使用していない。安否確認場所や集合場所の方が分かりやすい。  
→ポイント⑮
- ・2次元コードが利用できる人ばかりではない。  
→ポイント⑯

### 市町からの意見

- ・地震発生時の安否確認方法は一時避難先への集合や軒先確認等、地区ごとに異なっている。  
→ポイント⑮
- ・土砂キキクルを紹介して、土砂災害に関する情報を自ら入手してもらいたい。  
→ポイント⑯

## ○「わたしの避難計画」(A4) 左側

作成日 年 月 日

冷蔵庫や玄関など  
目につく場所に貼っておこう!

嵐山反射炉PRキャラクターてつぞえもん

**大雨① ハザードマップで自宅の危険を確認し、記入**

**河川氾濫による危険** **土砂災害による危険**

(いずれか1つに☑)

家屋流出のおそれあり  
(家屋倒壊等氾濫想定区域内)

家屋流出のおそれはないが  
**浸水のおそれあり**  
[右から選んで □で囲もう]

危険なし

5m~10m未満  
3m~5m未満  
0.5m~3m未満  
0.5m未満

(いずれか1つに☑)

土砂災害のおそれあり  
[下から選んで □で囲もう]

危険なし

土砂災害警戒区域  
土砂災害特別警戒区域

<狩野川カメラ情報> 川の防災情報(国土交通省)  
近くの川の様子を自宅から安全に確認しよう!  
2次元コードが読み込めない場合は、「川の防災情報」で検索!

川の防災情報 検索

自由記載欄 (持ち出し品や、家族や親戚の電話番号 など)

### ポイント① オプション

- ・市町の公式キャラクターを掲載

### ポイント② 原則

- ・河川氾濫は、家屋流出のおそれ、浸水のおそれ、危険なしの3択。
- ・土砂災害は、土砂災害のおそれ、危険なしの2択。

### ポイント③ 原則

- ・浸水深の選択肢はハザードマップと合わせた表記(0m~0m未満等)。
- ・模式図を掲載。ハザードマップと合わせた色彩。

### ポイント④ オプション

- ・いざという時に見てもらいたい情報を掲載。
- 例：河川カメラの2次元コード  
持ち出し品チェックリスト等

### ポイント⑤ オプション

- ・自由記入欄を追加。例：家族の連絡先等

## 住民からの意見

- ★災害リスクについて、該当なしを選択肢に追加して欲しい。
- ・家屋倒壊等氾濫想定区域に重なっている場合の浸水深が分からない  
→ポイント②(家屋倒壊等氾濫想定区域内は浸水深の確認不要)
- ・浸水深を書く箇所は○~○とハザードマップに合わせた方が良い。
- ・どこまで浸水するかイメージできず、浸水深より高い位置に居室があるか判断できない。  
→ポイント③
- ・家族の連絡先や、災害用伝言ダイヤル等を記載できる場所があった方がよい。  
→ポイント⑤

## 市町からの意見

- ・増水時に現地の河川を見に行く人がいるので、河川カメラのサイトを見るよう促したい。
- ・持ち出し品チェックを追加したい。  
→ポイント④

右側

**ポイント⑥ 原則**

・災害種別のピクトグラムを使用。

**ポイント⑦ 原則**

・枠デザインを作成ガイドと統一。

**ポイント⑧ 原則**

・情報収集手段の候補を列記

**ポイント⑨ 原則**

・地震発生時の行動について、市町や地区のルールに応じて記載。

**住民からの意見**

・各手順がわたしの避難計画のどこに該当するのか、分かりやすくしてほしい。

→ポイント⑦

**市町からの意見**

・ピクトグラムを入れることで、視覚的に分かりやすい。

→ポイント⑥

・地震発生時の安否確認方法は一時避難先への集合や軒先確認等、地区ごとに異なっている。

→ポイント⑨

# 標準パターンB（津波リスクが想定される地区）の構成

## ○作成ガイド（A4×4 ページ、A3 二つ折り）1 ページ目

わたしの避難計画「作成ガイド」  
～ 牧之原市（川崎地区）版 ～

目次

大雨の時（ 河川氾濫の危険 土砂災害の危険）

手順① 避難に時間がかかる人はいるかな？ 1ページ

手順② 大雨の時、自宅はどうなる？ 2ページ

手順③ 「避難先」、「タイミング」、「情報収集手段」は？ 3ページ

巨大地震・津波が発生したら・・・

手順④ 巨大地震や津波が発生した時、自宅はどうなる？ 4ページ

手順⑤ 「どこに」、「いつまでに」避難すればいい？ 4ページ

完成みほん

赤文字の例のように書いていきます。

ガイドに沿って  
これをつくっていくよ！

手順① 避難に時間がかかる人はいるかな？

・高齢で歩くのがおそい方など「避難に時間がかかる人」がいる場合、早めの避難が必要です。

・ひとり暮らしなどで、避難に「支援が必要な方」は、支援してもらう方を決めてお願いしておこう！

### ポイント① 原則

- ・ 該当地区の名称を明記し、地区に応じた「わたしの避難計画」にカスタマイズ。

### ポイント② 原則

- ・ あらかじめ作成の流れや完成イメージをもってもらうため、目次と見本を記載。

### ポイント③ オプション

- ・ 避難行動要支援者個別避難計画の担当課を紹介したい場合、「支援が必要な方は□□課☆☆係に相談しよう！」等で記載

### 住民からの意見

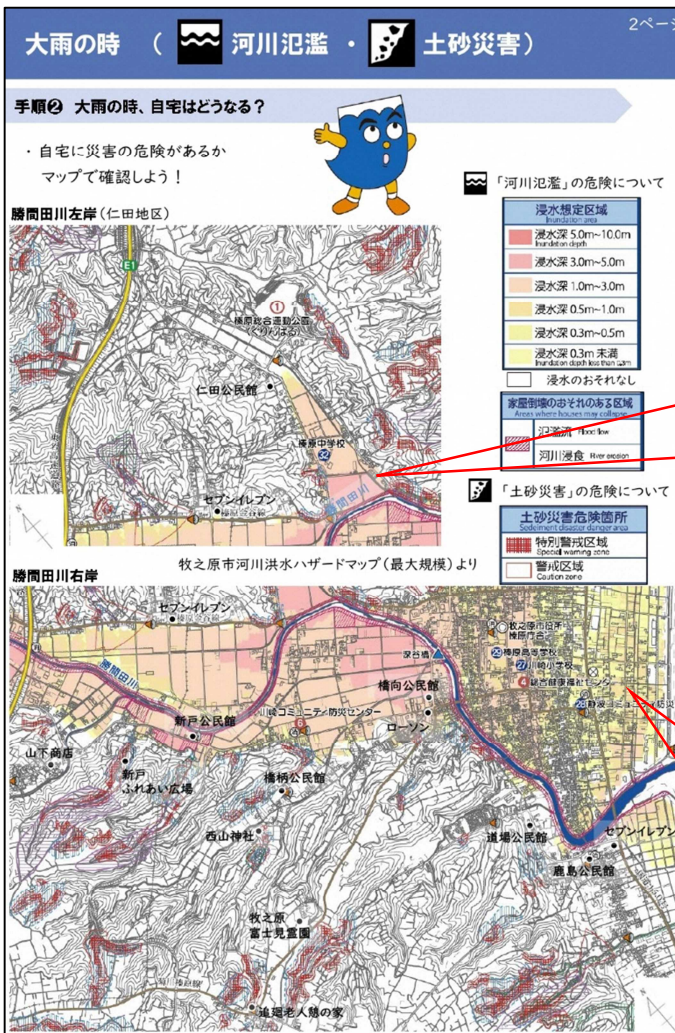
- ★作業の流れを最初に紹介してもらわないと、何から始めれば良いかわからない。  
→ポイント②

### 市町からの意見

- ・ 避難行動要支援者の相談窓口として、民生委員や町の福祉担当課を紹介したい。  
→ポイント③



## 2 ページ目



### ポイント④ オプション

- ・ハザードマップが見えにくい方向けに国土交通省の重ねるハザードマップの2次元コードを掲載。

### ポイント⑤ 原則

- ・拡大したハザードマップを掲載。
- ・身近なランドマーク（スーパー、コンビニ等）を適宜追加。

### ポイント⑥ オプション

- ・凡例色が見えにくい場合は、代表点の浸水深等を旗揚げして例示。

### ポイント⑦ 原則

- ・凡例を掲載。併せて各用語の説明を記載することが望ましい。
- ・浸水深の凡例に浸水なしを追加。

### 住民からの意見

★ハザードマップが市町全体図では見づらい。目印がなく自宅の位置がわからない。コンビニや地区の目標物などが書かれていると分かりやすい。

→ポイント④、ポイント⑤

★ハザードマップの浸水深の色分け（国の標準）が見づらい。

→ポイント⑥

★ハザードマップで色がついていない所はどういう意味なのかわからない。

→ポイント⑦

### 市町からの意見

- ・見えづらい場合は、各戸配布しているハザードマップを参考にしてもらいたい。

### 3 ページ目

3ページ

**手順⑧ 「避難先」、「避難のタイミング」、「情報収集手段」は？**

① 下の図の矢印をたどっていき、たどりついた「避難先」と「避難のタイミング」を「わたしの避難計画」に書き写そう！

「土砂災害」の危険がある場所にお住まいですか？（土砂災害警戒区域 など）

はい ↓ いいえ

川が氾濫した場合、「家屋倒壊のおそれのある区域」にお住まいですか？

はい ↓ いいえ

川が氾濫した場合、自宅は浸水しますか？

はい ↓ いいえ

川が氾濫した場合の「浸水深」より高い場所に居室がありますか？

はい ↓ いいえ

避難にかかる時間はありますか？（高齢者が歩くのが遅い人など）

はい ↓ いいえ

安全な場所に住んでいる「頼れる親戚や知人」はいますか？

はい ↓ いいえ

安全な場所に住んでいる「頼れる親戚や知人」はいますか？

はい ↓ いいえ

避難のタイミング「高齢者等避難」※2が発表されたら

避難先※3 ○○さんの家

避難のタイミング「高齢者等避難」※2が発表されたら

避難先※4 ・榑原中学校  
・その他

避難のタイミング「避難指示」※2が発表されたら

避難先※3 ○○さんの家

避難のタイミング「避難指示」※2が発表されたら

避難先※4 ・榑原中学校  
・その他

※1 水が引くまでの間の「飲み水・食料」や「簡易トイレ」などの持ち出し品を準備しておこう！  
 ※2 高齢者等避難が発令されるよりも前に「自主避難所」が開設されている場合もあります。町内会長さんに聞いてみて、可能な限り早期の避難を心がけよう！  
 ※3 親戚や知人の家には、安全に避難できるうちに避難しよう！  
 ※4 被害状況によっては、榑原中学校以外の避難所が開設される場合もあります。下の「牧之原市LINE」や「まきはらTeaメール」から避難所の開設情報を確認しよう！

② 「情報収集手段」を決めよう！

市内の高齢者等避難や避難指示、避難所の情報

牧之原市 LINE

まきはら Teaメール

県内の防災情報

静岡県 防災アプリ

テレビ ラジオ

#### ポイント⑧ 原則

- ・原則立ち退き避難となる、土砂災害警戒区域と家屋倒壊等氾濫想定区域からフローを始める。

#### ポイント⑨ 原則

- ・枠デザインを「わたしの避難計画」と統一する。

#### ポイント⑩ 原則

- ・在宅避難も避難先の記載を例示。

#### ポイント⑪ 原則

- ・地区に対応した避難先を列記。

#### ポイント⑫ オプション

- ・避難先の選び方の留意点を注記。

#### ポイント⑬ 原則

- ・入手できる情報を見出しとして、情報収集手段を列記。テレビは必須。

### 住民からの意見

★在宅避難の場合、避難先をどう書けば良いか分からない。

→ポイント⑩

- ・情報収集手段がそれぞれ何の情報が入るかが分からない。
- ・スマホが使えない人もいるため、テレビやラジオも追加してほしい。

→ポイント⑬

### 市町からの意見

・宿泊施設と災害時の避難先利用として同意を得ており、避難先にホテル等を追加したい。

→ポイント⑪

- ・在宅避難の場合の貯蓄を促す文書を入れたい。
- ・指定避難所以外の避難所が開設される場合もある、という旨を記載してほしい。

→ポイント⑫

・市町独自のアプリや SNS を紹介したい。

→ポイント⑬



## 4 ページ目

4ページ

### 巨大地震・津波が発生したら・・・

手順④ 巨大地震や津波が発生した時、自宅はどうなる？

**地震**・・・巨大地震の時には「震度6弱」以上の揺れが来ます。

**津波**・・・① 自宅に、津波が「来るのか」、「来ないのか」？  
② 揺れてから「どのくらいの時間で」津波が来るのか？  
をマップで確認しよう！

<津波浸水想定区域>  
牧之原市津波ハザードマップより

津波による浸水深	
0.3m未満	5.0m以上 5.0m未満
0.3m以上 1.0m未満	5.0m以上 10.0m未満
1.0m以上 2.0m未満	10.0m以上 20.0m未満
2.0m以上 3.0m未満	20.0m以上

<津波到達時間>  
国土地理院地図より

津波到達時間  
南海トラフ巨大地震ケース1

30分以上
25分以上30分未満
20分以上25分未満
15分以上20分未満
10分以上15分未満
5分以上10分未満
5分未満

道路 高速 国道 県道

手順⑥ 「どこに」、「いつまでに」避難すればいい？

**津波が来る場合** 「津波到達時間」までに、たどり着くことができる「避難先」に避難します。  
「到達時間」と「避難先」を、「わたしの避難計画」に書こう！

**津波が来ない場合** 町内で決められている「避難先(集合場所)」に一旦集合します。  
「避難先(集合場所)」を、「わたしの避難計画」に書こう！

※避難先が分からない場合は、牧之原市HP「指定緊急避難場所(榛原地域)」で確認しよう！

### ポイント⑭ 原則

- ・ 想定されている震度および液状化の可能性の有無を文章で記載。

### (再掲) ポイント⑤ 原則

- ・ 拡大したハザードマップを掲載。
- ・ 身近なランドマーク（スーパー、コンビニ等）を適宜追加。

### ポイント⑮ 原則

- ・ 津波到達時間のマップを掲載。  
(県より画像データ提供可)

### ポイント⑯ 原則

- ・ 地震時の安否確認方法を記載。  
(集合場所や一時避難先など、地区で使用している表現とする)

### ポイント⑰ オプション

- ・ 津波からの避難先に関する注記。

## 住民からの意見

- ★ 想定震度や液状化可能性のハザードマップは（メッシュが粗く）見づらい。  
→ ポイント⑭（想定震度や液状化のハザードマップはあくまで地域の傾向を示したもの）
- ・ 一時避難先という表現を使用していない。安否確認場所や集合場所の方が分かりやすい。  
→ ポイント⑯

## 市町からの意見

- ・ 地震発生時の安否確認方法は一時避難先への集合や軒先確認等、地区ごとに異なっている。  
→ ポイント⑯
- ・ 津波時の避難先（指定緊急避難場所）は、市HPに掲載されている旨を追記してほしい。  
→ ポイント⑰

○「わたしの避難計画」(A4) 左側

ポイント① 原則

- ・災害種別のピクトグラムを使用。

ポイント② 原則

- ・枠デザインを作成ガイドと統一。

ポイント③ 原則

- ・情報収集手段の候補を列記。

ポイント④ 原則

- ・地震発生時の行動について、市町や地区のルールに応じて記載。

ポイント⑤ 原則

- ・津波からの避難について、早期避難を促すため、津波到達時間と避難先を記載。

住民からの意見

- ★各手順がわたしの避難計画のどこに該当するのか、分かりやすくしてほしい。
- ポイント②

市町からの意見

- ・ピクトグラムを入れることで、視覚的に分かりやすい。
- ポイント①
- ・地震発生時の安否確認方法は一時避難先への集合や軒先確認等、地区ごとに異なっている。
- ポイント④

右側

～作成ガイドで確認したことをメモしておこう～

**河川氾濫による危険**  
(いずれか1つに☑をつけておく)

家屋流出のおそれあり  
(家屋倒壊のおそれのある区域に居住)

家屋流出のおそれはないが、  
 浸水のおそれあり  
(河川の浸水想定区域に居住)

{ ( ) } を □ で囲もう

3階	5m～10m未満
2階	3m～5m未満
1階	0.5m～3m未満
1階以下	0.5m未満

危険なし

**土砂災害による危険**  
(いずれか1つに☑をつけておく)


土砂災害のおそれあり

{ ( ) } を □ で囲もう

土砂災害警戒区域に住んでいる


土砂災害特別警戒区域に住んでいる

危険なし



自由記載欄 (持ち出し品や、家族や親戚の電話番号 など)

巨大地震に備え、1週間分の水・食料・生活必需品の備蓄をしましょう!



**ポイント⑥ 原則**

- ・ 河川氾濫は、家屋流出のおそれ、浸水のおそれ、危険なしの3択
- ・ 土砂災害は、土砂災害のおそれ、危険なしの2択。

**ポイント⑦ 原則**

- ・ 浸水深の選択肢はハザードマップと合わせた表記 (0m～0m 未満 等)。
- ・ 模式図を掲載。ハザードマップと合わせた色彩。

**ポイント⑧ オプション**

- ・ 市町(県)の公式キャラクターを掲載

**ポイント⑨ オプション**

- ・ 自由記入欄を追加。
- 例：家族の連絡先、災害用伝言ダイヤル等

**住民からの意見**

- ★災害リスクについて、該当なしを選択肢に追加して欲しい。
  - ・ 家屋倒壊等氾濫想定区域に重なっている場合の浸水深が分からない
  - ポイント⑥ (家屋倒壊等氾濫想定区域内は浸水深の確認不要)
- ★浸水深を書く箇所は○～○とハザードマップに合わせた方が良い。
  - ・ どこまで浸水するかイメージできず、浸水深より高い位置に居室があるか判断できない。
  - ポイント⑦
- ・ 家族の連絡先や、災害用伝言ダイヤル等を記載できる場所があった方がよい。
  - ポイント⑨

## 知識ブックの構成（任意作成）

より知識を深めたい住民に向けた補足資料、「知識ブック」について紹介します。「知識ブック」は、「わたしの避難計画」の作成過程で必ず使用するものではありませんが、この計画をより理解するための参考資料です。

### ○知識ブックの記載項目

記載項目（例）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河川氾濫の浸水深と避難の目安</li> <li>・ 土砂災害の指定区域の種類、土砂災害の前兆現象</li> <li>・ 市町から発令される避難情報</li> <li>・ 避難の参考情報（河川水位、土砂災害警戒情報、土砂キキクル、津波警報等）</li> <li>・ 避難先の選び方</li> <li>・ 地震の震度、液状化、津波の説明</li> <li>・ 避難時の持ち物、避難先での生活の留意点、避難経路の点検・検討</li> <li>・ 災害用伝言ダイヤルの使用方法</li> </ul>

**避難のタイミング・避難に関する情報について**

国交省の川の防災情報や県のサイボースで川の水位やカメラ映像が確認できます。

・2次元コード  
地区を拡大

水位（〇〇橋）

・2次元コード  
地区を拡大

河川カメラ（〇〇橋）

国土交通省 川の防災情報

凡例（一部）

- 水位計測
- 水位計
- ダム雨量
- 雨量
- 水質
- 海平
- 浸水深
- 河川カメラ

〇避難の参考になる情報（土砂災害）

**土砂災害警戒情報**

大雨により、命に危険が及ぶ災害が発生してもおかしくない状況になったときに、県と気象台が共同で発表するものです。（この情報は市町ごとに発表されます。）避難を判断するための重要な情報となります。

土砂災害の危険度は「土砂キキクル」で確認できます。土砂キキクルの表示が「非常に危険」を示している場合、影響が予測される土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域にお住まいの方は、速やかに避難を開始しましょう。

・2次元コード  
地区を拡大

土砂キキクル（〇〇地区）

**土砂キキクルのイメージ**

キキクルの色	住民がとるべき行動
濃い紫（極めて危険）	・ <b>ただちに命を守る最善の行動をとる。</b> ※山や崖から離れ、高層階や強固な建物・高い建物に避難する。
薄い紫（非常に危険）	・土砂災害警戒区域外の安全な場所に <b>全ての住民が避難を完了させる。</b>
赤（警戒）	・避難に時間がかかる人は土砂災害警戒区域外へ避難を開始する。
黄（注意）	・避難行動を確認する。今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。

出典：気象庁 ホームページ

### 住民からの意見

- ・ 各種災害について、知識を深めたい。
  - － 警戒レベルが分からない。
  - － 液状化とはどのような現象か。
  - － 土砂災害の前兆現象を知りたい。
  - － 避難時の持ち出し品を知りたい。
  - － 災害用伝言ダイヤルを知りたい。
  - － 避難経路の検討について記載すべき。
- ・ 補足情報等は別冊化した方が良い。

### 市町からの意見

- ・ 各種災害に関する補足情報について、それぞれ記載してほしい。
- ・ 水位などをネット上で確認出来ることを伝えたい。発災時に危険箇所を確認しに行き、被災してしまうリスクを減らしたい。

### ○知識ブックの作成方法

別添の作成例を参考に、配布地域に応じた内容の追加、修正等を行なってください。



## 7. 印刷費用等

本年度（R3）モデル地区で作成した「わたしの避難計画」を印刷し、各戸配布しました。印刷費用の実績を以下に示しますので、予算検討の参考としてください。

モデル地区名		配布資料	紙品質※1	印刷部数	参考金額※2
伊豆の国市	南條地区	わたしの避難計画 作成ガイド 知識ブック	マットコート紙 A4*1 頁 コート紙 A4*4 頁 コート紙 B5*12 頁	1,740 部	約 117,000 円 (68 円/部)
菊川市	平川地区	わたしの避難計画 作成ガイド 知識ブック	マットコート紙 A4*1 頁 コート紙 A4*4 頁 コート紙 B5*8 頁	1,090 部	約 71,000 円 (66 円/部)
清水町	中徳倉地区	わたしの避難計画 作成ガイド	マットコート紙 A4*1 頁 コート紙 A4*4 頁	690 部	約 16,000 円 (24 円/部)
河津町	見高入谷地区	わたしの避難計画 作成ガイド	マットコート紙 A4*1 頁 ↑ <u>切り取りミシ線あり</u> コート紙 A4*4 頁	250 部	約 24,000 円 (96 円/部)

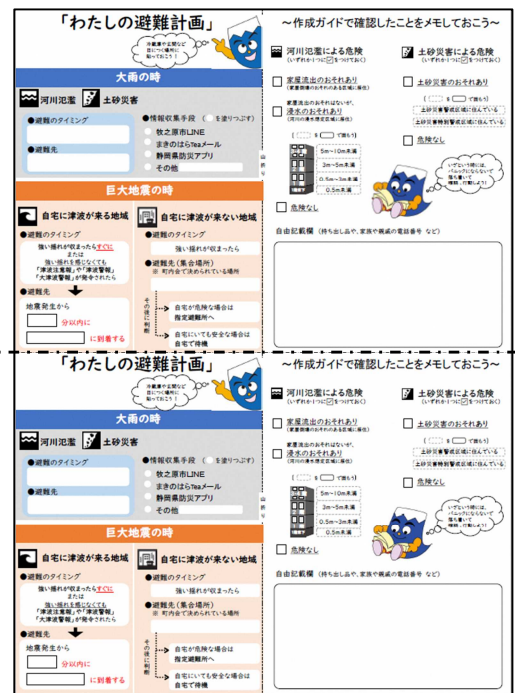
※1 作成ガイドにわたしの避難計画と知識ブックを挟み込む形で納品しています。

※2 個別に発注しているため、単価が異なります。

### 補足説明（わたしの避難計画 家族用）

A4のわたしの避難計画をA3二つ折りの作成ガイドに挟み込んで配布することを想定しています。

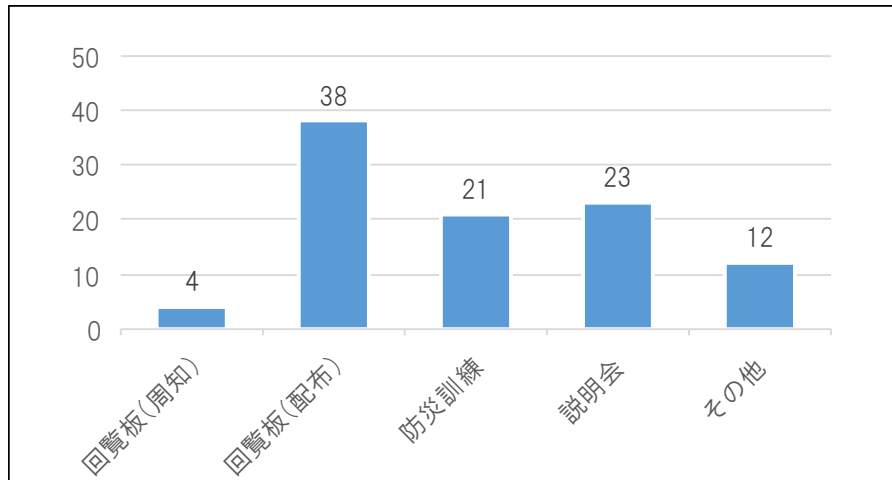
わたしの避難計画をA3に2UPで並べると、家族用含め2枚分の印刷が可能です。この場合、わたしの避難計画と作成ガイドが同じA3サイズとなるため、条件によっては、印刷経費が安くなる場合があります。



作成例

## 8. 普及方法

「わたしの避難計画」を幅広く普及する方法について、ワークショップでの住民意見やモデル地区での配布事例に基づき紹介します。ワークショップを行った8つのモデル地区では、以下のグラフのように、「回覧板」や「防災訓練」、「説明会」による普及などの声が、多く聞かれました。



※WS 参加者に行ったアンケートの内、「普及方法」の設問に回答いただいた方の内訳

### ○回覧板（周知）・・・参考資料3「チラシ」を参照

- ・ 回覧板で予告をし、防災訓練や説明会時に配って作成

### ○回覧板（配布）・・・参考資料4「アンケートの活用」を参照

- ・ 予め配布し、作成の有無をアンケート等で確認

### ○防災訓練

- ・ 地区の班長や民生委員等が説明し、防災訓練の場で作成

### ○説明会・・・参考資料5「解説の手引き」を参照

- ・ 班や組単位での話し合いの場を活用して作成
- ・ 地区の集会時に市町担当者による説明の後、作成

### ○その他

- ・ 作成動画を作成して配信
- ・ 広報での配布
- ・ ホームページで作成方法を公開
- ・ 作成過程のDVDを地区毎に配布し、会議や防災訓練時に上映
- ・ 学校教育の中で子供が作成し、後日自宅で保護者と確認